

いつでもどこでも

令和二年九月一六日 加茂法話会

正法眼蔵 行持（上）

行持：行は修行で、修行者としてなすべきこと。持は護持、持続、たもつ、の意。修行を常にやめないこと。修行生活。修行による仏道の護持。仏道修行者の正しい生活姿勢の努力。（仏教語大辞典）

趙州從諗禪師

じょうしゅうじゆうしん

778年～897年 享年120歳

61歳で発心。南泉普願禪師のもとで20年修行。80歳で趙州観音院の住持となり、120歳で亡くなるまで40年間務める。

エピソード

観音院は大きくない僧堂であり、設備も整っていなかった。施主に布施をお願いする手紙を一通も送らず、財産も貯めず、食べ物も少なく木の実などを拾って食べていた。

坐禅をするときに使う椅子の脚が折れたときも、棄てられた燃えさしの木を縄で結んで使い、知事が修理を願い出ても許さなかった。

←

質素で世間とも関わらずに修行された。

豊かになったり、世間と関わるとどうしても気持ちがそちらに向いていき振り回されてしまう。その結果、修行がおろそかになる。少しの時間でも惜しんで修行したい。

「行持の寸陰を可惜許なりと参学すべし。」

かしゃくこ

「入之一叢林なり、出之一叢林なり。鳥路一叢林なり、偏界一叢林なり。」

時間を惜しみ、場所にとらわれずに修行しなさい。あらゆるところが修行道場である。いま、ここが修行道場。